



我が県土
支え育む
希望郷

美しい

県土づくり NEWS

2021年

11月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第208号
令和3年11月30日発行
編集 県土整備企画室



復興支援10年
ありがとう

目次

- 2 一般県道碁石海岸線（末崎～碁石工区）が全線開通しました！
- 3 第60回東北地方治水大会（WEB併用）を開催しました！
- 5 令和3年度いわての地域づくり・道づくりを考える大会開催
- 7 主要地方道花巻平泉線山口工区が供用しました！
- 8 北いわて建設ICTセミナーを開催しました！
- 10 高病原性鳥インフルエンザ防疫対応実地訓練を実施しました！
- 11 岩手県流域下水道マンホールカード配布を再開しました！

一般県道碁石海岸線(末崎～碁石工区)が全線開通しました！

岩手県が「まちづくり連携道路事業」として大船渡市末崎町で整備を進めている一般県道碁石海岸線（末崎～碁石工区）は、令和3年11月18日（木）11時に全線開通しました。



開通直前の様子（R3.11.16撮影）

【まちづくり連携道路】

ごいしかいがんせん まっさき ごいし 一般県道碁石海岸線（末崎～碁石工区） が全線開通しました！

沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター

岩手県が「まちづくり連携道路事業」で整備を進めてきました、一般県道碁石海岸線（末崎～碁石工区）が、令和3年11月18日（木）11時に全線開通（2.4km）しました。新型コロナウイルス等の影響で、開通式は実施しませんでした。開通時には、地元住民の方々が集まり、悲願の道路の開通を喜んでいました。

本事業は、東日本大震災津波で壊滅的な被害を受けた大船渡市の末崎地区と碁石地区を結ぶ主要な道路として、防災集団移転団地等のまちづくりと一体となり、津波浸水区域を回避する災害に強い路線を整備しました。また、狭隘区間を解消し、歩道を設置することにより、走行性・安全性が向上するとともに、大船渡市を代表する観光地の碁石海岸や穴通磯等へのアクセス性も良くなることから、観光交流人口の拡大や観光振興活性化も期待されます。

【被災直後の様子】



【開通直後の様子】



第60回 東北地方治水大会(WEB 併用)を開催しました！

河川課

令和3年11月2日(火)、盛岡市内の会場で、「第60回東北地方治水大会」を開催しました。

「東北地方治水大会」は、治水事業の重要性を再認識し、東北地方における治水事業の一層の促進を図るとともに、国の予算確保などの要望を決議し、国などに提言することを目的として、昭和28年度から東北六県が持ち回りで開催しています。

〔主催：全国治水期成同盟会連合会、岩手県、岩手県河川海岸協会〕

前回大会(H26)から7年ぶりの岩手県会場となりましたが、今大会は、新型コロナウイルス感染症対策に鑑み、会場に参集する人数を縮小するとともに、ウェブを併用した開催方式とし、国土交通省本省及び東北地方整備局、東北各県及び県内市町村等約90人が参加しました。

当日は、達増知事、脇雅史全国治水期成同盟会連合会長による主催者挨拶の後、来賓の五日市県議会議員及び稲田東北地方整備局長から祝辞をいただきました。



▲主催者挨拶：達増知事



▲主催者挨拶：脇全国治水期成同盟会連合会長



▲来賓祝辞：五日市岩手県議会議員



▲来賓祝辞：稲田東北地方整備局長

セレモニーの後は、岩手県河川海岸協会の佐藤善仁会長（一関市長）に座長をお願いし、国土交通省（佐々木治水課長・國友東北地方整備局河川部長）による治水事業概況説明のほか、岩泉町の中居健一町長による意見発表「平成28年台風第10号災害からの歩み（防災力編）」では、台風第10号災害からの復旧・復興への取組や、小本川における流域治水プロジェクト、事前防災に向けた取組なども紹介していただきました。



水管理・国土保全局
佐々木治水課長



東北地方整備局
國友河川部長



▲ 意見発表：中居岩泉町長

意見発表の後は、岩手県河川海岸協会の高橋昌造副会長（矢巾町長）が、決議文を読み上げました。

- ・『「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に必要・十分な予算確保』
- ・「令和元年東日本台風、令和2年7月豪雨、令和3年8月豪雨などで被災している河川の早期復旧を図るとともに、『再度災害防止対策』を迅速・確実に進めるための所要の予算を確保すること』
- ・「流域治水プロジェクトに基づく取組を継続的に実施するための予算の十分な財源確保』
- ・「大規模地震に備えた河川堤防等の耐震対策、津波対策の着実な推進」

など8項目の要望を盛り込んだ大会決議が全会一致で採択され、安全で安心な国土づくりに向けて、国会や政府に対し要望していくことを確認しました。



▲決議文朗読
高橋矢巾町長

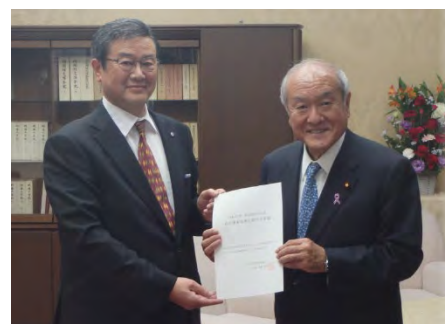
～次期開催県は宮城県に決定しました～

令和3年度治水事業促進全国大会・要望活動について

11月12日（金）、全国治水期成同盟会連合会主催の「令和3年度治水事業促進全国大会」が開催され、岩手県からは5市町村が参加し、全国大会で決議した要望書とともに、11月2日（火）に開催した東北地方治水大会の要望書を国会議員へ提出しました。

今年度は、普通要望のほか、全国治水期成同盟会連合会の協会長とともに、本県出身の鈴木俊一財務大臣本人に特別要望を行いました。

東北地方治水大会で決議された要望書は、岩手県河川海岸協会評議員の晴山九戸村長が代表して鈴木大臣に手渡しました。



▲晴山九戸村長と鈴木財務大臣

岩手県道路整備促進期成同盟会主催

令和3年度いわての地域づくり・道づくりを考える大会 開催

道路建設課

令和3年11月10日(水)、花巻温泉ホテル千秋閣にて、岩手県道路整備促進期成同盟会(会長:花巻市長)主催で『いわての地域づくり・道づくりを考える大会』が開催されました。(共催:岩手県高規格幹線道路整備促進期成同盟会(会長:知事)、岩手県道路利用者会議(会長:盛岡市長))

大会には、稲田 東北地方整備局長を始め、県内の市町村長や県議会議員、関係団体など約200人に御出席いただきました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、マスクの着用・ソーシャルディスタンスの確保等の感染防止対策を徹底したうえ、例年より規模を縮小して開催されました。



令和3年度いわての地域づくり・道づくりを考える大会の様子

上田 花巻市長は主催者挨拶で、『地域住民の暮らしを守り、ポストコロナ時代における地方志向の高まりを踏まえた地方創生のためには、**道路予算の安定的・持続的な確保が必要**である。』と述べました。達増 知事(代読:菊池 副知事)は共催者代表挨拶で『**防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策**』について、**その取組を計画的に推進するために必要な予算を、通常予算とは別枠で確保**するよう国に強く働きかけていくことが重要』と述べました。

また、来賓の方々を代表し、稲田 東北地方整備局長、五日市 県議会議長(代読:小野 県議会副議長)からそれぞれ祝辞をいただきました。



主催者挨拶 上田 花巻市長



共催者代表挨拶 達増 知事(代読:菊池 副知事)



来賓祝辞 稲田 東北地方整備局長

大会では、「道路行政を取り巻く最近の話題」と題して、荒瀬 国土交通省道路局環境安全・防災課長から概算要求のポイントと、主要施策の状況について講演をしていただきました。また、意見発表者として一般社団法人根浜 MIND/株式会社マリンエナジーの細江絵梨 氏、株式会社アイオー精密代表取締役社長の鬼

柳一宏 氏、御所野縄文博物館館長の高田和徳 氏の3名から、それぞれの地域における実情を踏まえた道路の重要性や今後の利活用について発表していただき、最後には佐藤 一関市長が決議(案)を読み上げ、大会決議が採択されました。



国土交通省道路局
荒瀬 環境安全・防災課長



意見発表の様子



決議(案)読み上げ 佐藤 一関市長



一般社団法人根浜 MIND/株式会社マリンエナジー
細江 絵梨氏

【テーマ】「根浜地域住民の道路への声×グローバル活動」

【主な発言内容】

- ・ 行政と地域住民の対話により、地域住民が納得した形の防潮堤が形成された。
- ・ 地域に残された工事用道路は現在災害時の逃げ道のほかに、観光ルートとしても利用されている。
- ・ 今後は、根浜地域の復興の際に得たノウハウを、同様の被災をした海外の地域にも伝えていきたい。



株式会社アイオー精密代表取締役社長
鬼柳 一宏氏

【テーマ】「物流インフラの高度化が実現する究極ものづくりサービス」

【主な発言内容】

- ・ ITと高度な物流網を駆使することで、地方に立地しながらも全国広域へ距離感なく高度なサービス提供が可能になる。
- ・ 道路は、航空機や鉄道に比べて自然災害や経済変動の影響を受け難い安定した物流インフラである。
- ・ 高速道路網の整備や拡充による副産物として、従来よりも広域からの従業員確保が可能となり、人手不足を補填することができる。



御所野縄文博物館館長
高田 和徳氏

【テーマ】「御所野遺跡の世界遺産登録について」

【主な発言内容】

- ・ 令和3年7月27日に「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録された。
- ・ 遺跡の中には道の駅と一体となり、見学を行っているところも多くある。
- ・ 連日多くの観光者が来るのは遺跡の近くにICや道路があることが大きな要因である。

大会後には、11月15日(月)及び19日(金)に関係省庁等を訪問し、度重なる災害からの速やかな復旧・復興をはじめ、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」についてその取組を計画的に推進するため、必要な予算を確保すること、一般国道4号の2車線区間の4車線化、宮古盛岡横断道路の指定区間編入、令和4年度当初予算における公共事業関係費の大幅な増額などを要望しました。

県としては引き続き、国や市町村、関係者の皆様と連携し、安全・安心を支え、産業や観光振興の基盤となる社会資本の整備に向け、取り組んでいきます。

主要地方道花巻平泉線山口工区が供用しました！

県南広域振興局土木部 花巻土木センター

県が整備を進めてきた、主要地方道花巻平泉線山口工区が、令和3年10月に供用しました。主要地方道花巻平泉線は、観光に利用されるとともに沿線住民の生活にも広く利用されるなど、沿線地域において重要な役割を担う路線となっています。

しかしながら、本事業の現道には、幅員狭小で大型車同士のすれ違いが困難で、円滑な交通に支障が生じている区間や、歩道が設置されていないため、歩行者等の安全な通行が確保されておらず、交通事故発生危険が生じている区間がありました。

このことから、現道拡幅による延長265mの道路改良事業が計画され、本事業の完成により、自動車及び歩行者等の安全かつ円滑な交通の確保が期待されます。



北いわて建設 ICT セミナーを開催しました！

建設技術振興課

令和3年11月9日と17日に北いわて地域（久慈・二戸・岩泉管内）に本店を置く建設企業を対象とした、「北いわて建設 ICT セミナー」を開催し、合計52名の方にご参加いただきました。

このセミナーは、県内平均と比較して高齢化率が高い北いわて地域の建設業の生産性向上を図るため、ICT 施工に対応した技術者やオペレーターの育成を目的として、「北いわて建設技術向上促進事業」に基づき、岩手県と岩手県建設業協会の主催で令和2年度から行っているものです。

11月9日は二戸市で座学研修を行い、県の取組事例やICT 機器の特徴・活用方法、施工業者から現場での生産性向上について講義を行いました。11月17日には、一戸町で現場研修を行い、建設機械メーカー協力のもと、バックホウ2台、ブルドーザー1台を準備し、参加者は複数のグループに分かれ、メーカーのインストラクターから建設機械の技術や操作方法の説明を受けながら性能を体感していただきました。参加者からは、「周りからICTは便利で良いと聞いていたが、実際に操作してみても丁張が不要で作業が楽になると実感した。安全面にも効果があると分かった。」と、本セミナーを通して効果を実感した声も聞かれました。



▲11月9日（座学研修）受講状況



▲11月17日（現場研修）受講状況

【講習内容】

11月9日＜座学研修＞ 20企業31名が参加

- 岩手県県土整備部における取組
講師 県土整備部建設技術振興課
- ICT 活用工事 これまでの振り返りとこれから
講師 株式会社岩手測器社
- 生産性向上を極める
講師 株式会社石岡組

11月17日＜現場研修＞ 12企業21名が参加

- 重機操作説明・指導
講師 日本キャタピラー合同会社



▲11月9日（座学研修）
県土整備部の取組を説明
（講師 建設技術振興課 阿部主任）



▲バックホウ（0.8m³）の操作指導・体験



▲ブルドーザーの操作指導・体験

～補助金制度のご紹介～

岩手県では、県内に主たる営業所を有する建設企業を対象に、現場の生産性向上に向けてICT機器を導入する際の経費の一部に対し補助金を交付しています。

1 補助対象機器

(1) 既存の建設機械へICTを搭載(後付け)

(2D・3D)

- ・マシンコントロールシステム ※写真1
- ・マシンガイダンスシステム

(2) 3D測量機器

- ・3Dレーザースキャナー
- ・自動追尾型トータルステーション
- ・UAV(ドローン) ※写真2
- ・GNSS受信機



写真1：マシンコントロールシステムによる施工

2 補助金の額

100万円を上限とし、当該経費の2分の1以内の額。

3 募集期間

例年4月、5月頃から約1ヶ月間募集しています。

(令和3年度分の募集は終了していますが、来年度も募集する予定です。)



写真2：UAV(ドローン)による3次元測量

詳しくは、[岩手県公式ホームページ](#)でご確認ください。

[トップページ](#)>[県土づくり](#)>[建設業](#)>[新技術・経営革新](#) からご確認いただけます。

高病原性鳥インフルエンザ防疫対応 実地訓練を実施しました！

県南広域振興局土木部

当部では、岩手県鳥インフルエンザ等発生時対応要領（H22.7 制定）に基づき、埋却・消毒班（土木部）の担当業務のひとつである、汚染物品等の埋却作業を迅速かつ円滑に実施できるように、（一社）岩手県建設業協会奥州支部が主催する実地訓練に県南家畜保健衛生所と共に参加しています。

今回の訓練は、令和3年10月13日（水）に実施し、平成29年度から5回目の開催となります。

この訓練は、防護服着用、埋却溝掘削、消石灰散布、ブルーシート敷設、フレコンバック投入、埋戻し、防護服脱衣の一連の作業を、実際に現地で実施することにより、問題・課題を抽出し今後の改善に繋げていくことを目的としています。

今年度の新たな取組として、発生時の昼夜連続作業を想定した投光器設置による埋戻し作業を実施しました。



バックホウにて埋却溝を掘削（作業は階段状の溝堀）



防護服着用状況（ゴム手袋と防護服をテープで密着）



ブルーシート敷設（今年度は延長方向の重ねせを1mとして実施）



夜間の埋戻し作業（バックホウでの表面均し）

岩手県流域下水道マンホールカード配布を再開しました！

下水環境課

下水道の普及啓発、親しみやすさを深めることを目的に、「下水道広報プラットフォーム（以下、「GKP」という。）」と共同制作した「岩手県流域下水道マンホールカード（わんこきょうだいデザイン）」について、令和3年10月より配布場所を「いわて・盛岡広域観光センター」に変更し、配布を再開しましたので、お知らせします。

◆マンホールカードとは？

マンホールカードは実在するマンホール蓋の魅力を楽しく伝え、下水道への理解・関心を深めるためのコミュニケーションツールとして、GKPが全国の下水道事業を実施している地方公共団体と共同で発行しているもので、これまでに全国で780種（580自治体）のカードが制作されています。

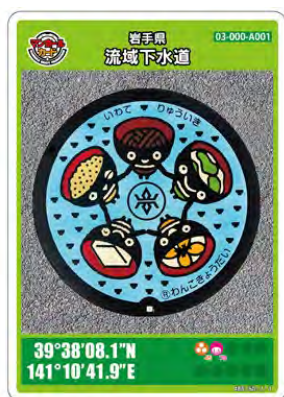
岩手県でも登録申請を行い、令和元年8月に「岩手県流域下水道」のマンホールカードを発行しました。

◆岩手県流域下水道マンホールカードについて

新型コロナウイルスによる政府の緊急事態宣言を受けて、配布を一時停止しておりましたが、令和3年10月25日より配布場所を変更して、マンホールカードの配布を再開しました。

- ◆配布場所：いわて・盛岡広域観光センター（盛岡市盛岡駅前通 1-48 盛岡駅舎 2 階）
- ◆配布時間：9時から17時30分まで（12/30～1/3を除く）

※原則、1人1枚の配布です。



デザインマンホール蓋の実物は、北上川上流流域下水道都南浄化センター敷地内に設置してあります！

◆県内のマンホールカードについて

県内ではこれまで、岩手県流域下水道のほか、盛岡市、宮古市（2種）、花巻市（4種）、久慈市、遠野市、釜石市（3種）及び九戸村の計14種が発行されております。

※各自治体の配布場所、現在の配布状況等については、GKPと各市町村のホームページにてご確認ください。

（参考）GKP ホームページ <http://www.gk-p.jp/>

